

「トミーの足あと」

島根県 正禅寺住職 吉長裕 教

「方丈さん、おるかいねえ?」

通用口から聞こえる大きな声。我が家の子どもたちが親しみを込め『トミーばあちゃん』と呼び、今では『トミー』というニックネームで親しまれている、うちのお寺の近所の方です。「トミー」は、背中の背負子しよこを下ろし、汗だくの顔を拭いながら上り框かまちに座ると「あんた九十を過ぎいと、ほんにえらいと思わっしやいや。まっ、もうちょんぼしで、お迎えが来うけん、したら方丈さん頼んけんね」。背負子から出される数々の野菜。茄子、きゅうり、トマト、枝豆、更にジャガイモまで。

細い身体の、一体どこに、これだけの野菜を 背負える力があるのか、いつも不思議でなりません。トミーの家から畑に行くには、お寺の横を通り延々と続く坂道を登らなければなりません。以前より随分と腰の曲がった姿は周りが心配するほどですが、下を向きながら一歩一歩確かな歩みを進め、畑で鍬を振るっています。子どもたちが小さな頃から、「今夜のおかずって、トミーからのお布施?」「いつも美味しいね!」と言っていたようにその光景は日常の「コマ」であり、子どもたちはトミーの野菜に育てていただいたと言っても過言ではありません。

さて、「布施」には、「施しを広げる」という意味もあります。大本山永平寺を開かれた道元禅師さまは、「布施というのは貪らない事」とおっしゃっています。欲しい、手放したくないなど、大小を問わず自分の欲を鎮めていくこと。また、貪りの心を抑えて広く差し出す、無心に差し出す、そこに価値があり、功德を受けることにも繋がります。

トミーは「いつも方丈さんが、嬉しい、嬉しいって言うけん、また持って来たわね」と言います。何か見返りを求めている訳でもなく、ただただ純粋な気持ちからの行為です。週に一度、もう何十年も届けられる「トミーの野菜」、私は畑から続く泥だらけの足あとに合掌したことでした。